

その他 1

令和 8 年第 2 回市議会定例会

1 日程

会 期	月 日	曜日	会議別	事 項
第 1 日	6 月 16 日	火	本会議	会期決定、諸般報告、議長報告、市政報告、例月出納検査結果報告、定期監査報告及び行政監査報告、株式会社美唄ハイテクセンターの経営状況報告、繰越明許費繰越計算書報告、予算繰越計算書報告、承認案件上程、条例・単行・補正予算案件上程、請願・陳情上程
第 2～3 日	6 月 17～18 日	水～木	休 会	議案審査
第 4 日	6 月 19 日	金	本会議	一般質問
第 5～6 日	6 月 20～21 日	土～日	休 会	
第 7 日	6 月 22 日	月	本会議	一般質問
第 8 日	6 月 23 日	火	休 会	常任委員会
第 9 日	6 月 24 日	水	休 会	スキー場の整備等調査特別委員会、議会改革推進委員会
第 10 日	6 月 25 日	木	休 会	予算審査特別委員会
第 11 日	6 月 26 日	金	本会議	委員長報告、人事案件上程、意見書案上程、請願・陳情上程

2 提出議案（教育委員会分）

契約締結の件（安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄旧体育館改修建築主体工事）

3 一般質問

順序	会派	質問者	質問要旨	質問日
1	令和議員会	海鉾 則秀議員	1 農業行政について 2 教育行政について＜教育長答弁＞ (1) 小学校における農業科の学習について (2) 北海道立美唄尚栄高等学校について	6 月 19 日
2	みずほ議員会	松山 教宗議員	1 市民への情報共有について 2 教育行政について 3 地域公共交通について	
3	市民交流クラブ	山上他美夫議員	1 市中心市街地について	
4	無 会 派	永森 峰生議員	1 福祉行政について 2 美唄国設スキー場整備について 3 行財政運営について	
5	令和議員会	森 明人議員	1 生活観光行政について	
6	市民交流クラブ	齋藤久美夫議員	1 行財政運営について	6 月 22 日
7	無 会 派	本郷 幸治議員	1 市職員の不祥事について 2 宮島沼について	
8	令和議員会	川上 美樹議員	1 保健福祉行政について 2 観光行政について	
9	市民交流クラブ	江川いつみ議員	1 広聴行政について 2 福祉行政について 3 生活支援について	
10	無 会 派	吉岡建二郎議員	1 公務員倫理と法令遵守について 2 中心市街地活性化等について	
11	無 会 派	伊原 潤司議員	1 中心市街地活性化基本計画について、コアビバイ・ホテルスエヒロ跡地を再開発すると思定めることの是非について	

令和 08 年 第 2 回 定例会一般質問

海鉾 則秀議員
教育委員会学務課

件 名 2 教育行政について

中項目 (1) 小学校における農業科の学習について

質問内容

現在、第 7 期美唄市総合計画後期基本計画における「地域に根ざし、暮らしに学ぶまちづくり」、「郷土愛を育む特色ある教育の推進」として、小学校における農業科の取組が行われています。

私としては、基幹産業である農業について学び、体験し、将来農業はもちろんのこと、食に関する仕事に興味を持ってもらうこと、また、日々の食べ物について子どもたちに関心を持ってもらいたいと考えている。

この農業科の学習における、現在の取組状況について伺います。

答弁内容

(小学校における農業科の学習について) であります。

本市では、平成 22 年度から「グリーン・ルネサンス推進事業」として取組を開始し、生命誌研究者である中村桂子さんの全面的な協力をいただきながら、令和 5 年に全国 2 例目となる小学校農業科を設け、また昨年度からは「地域と暮らしに学ぶ農業科推進事業」と名を改め、これまで本市の基幹産業である農業の特色を生かした教育として、農業科学習を継続して取り組んでまいりました。

現在では、小学校 3 年生から 6 年生までが、総合的な学習の時間の中で、農業科読本を使った学習や、作物の栽培・生育観察などに

ついて探求的に取り組んでおります。

その中でも、5年生では、農業者や美唄市農地環境保全会、JA、美唄尚栄高校などの関係団体の協力を得ながら、四季をとおした稲作体験学習を行い、生き物を育てるためには時間や手間がかかること、自然が相手では思いどおりに育たないことがあること、食べて成長していくことへの感謝などについて、地域や暮らしとのつながりの中で、子どもたちが「豊かな心」「社会性」「主体性」を体験的に理解し、社会で逞しく生きていくための基本的な力である非認知能力を伸ばす取組を行っております。

令和 08 年 第 2 回 定例会一般質問

海鉾 則秀議員

再質問

教育委員会学務課

件 名 2 教育行政について

中項目 (1) 小学校における農業科の学習について

質問内容

元気な体を保つためには、毎日口にする食べ物がいかに大切か、子どもたちに伝えたいと考えている。

食べ物が生きる基本であること、美唄の肥沃な大地で安全安心な食べ物を作る尊さや、新鮮な食材を口にするについて学び、将来は農業、または食に関する仕事、農業機械に関する仕事に興味を持ってもらってもよいと思う。

さらに、農業そのものを学ぶというより、農業をとおして多くのことを学んでももらいたいと考えている。

今後も引続き、充実した学習にしていだきたいと思うが、教育長の考えを再度伺う。

答弁内容

(小学校における農業科の学習について) でありますが、

これからも取組を継続、充実していくためには、子どもたちが大人になったとき、この学習が豊かな記憶として子どもたちの心に残り、美唄で育ったことを自らの誇りとして、豊かな自然環境や地域の文化を継承しながら、逞しく生きていくことができるよう、農業科をとおして行政、学校、地域が一体となり、地域の持つ教育力で美唄の子どもたちを育て、将来にわたり子どもたちの「生きる力」

を育む取組を行ってまいります。

令和 08 年 第 2 回 定例会一般質問

海鉾 則秀議員
教育委員会学務課

件 名 2 教育行政について

中項目 (2) 北海道美唄尚栄高等学校について

質問内容

6 月 2 日に北海道教育委員会が公表した 2027～2029 年度の公立高等学校配置計画案では、今春の入学者数が募集定員に対して 1 学級少なかった美唄尚栄高校について、2027 年度の募集学級数をどうするかということを、本年 9 月の計画決定時に公表するとのことだが、高校の存続はもちろんのこと、これまで教育委員会としては様々な支援をしてきたし、何より若い生徒さんが美唄に集い学ぶという機会を今後も損なわないよう、尚栄高校という学び舎が存続してほしいと考える。

これらのことについて、教育長の考えを伺う。

答弁内容

(北海道美唄尚栄高等学校について) でありますが、

今年の春の入学者数が募集定員に対し、1 学級少ない結果となったことに対しましては、中学校卒業者数の減少に加え、今年度から私立高校授業料が無償化されたことに伴い、私立高校志願者に対する入学者数の割合が増加したことが要因のひとつであると考えております。

教育委員会といたしましては、これまで、尚栄高等学校を支援するため、模擬試験、資格取得にかかる教育活動の経費や学校の P R

などに要する経費の助成、また、奨学金の給付などを行ってまいりました。

今回、入学者数が定員に満たなかったことは、今後の尚栄高校の存続にも影響するものと考え、北海道教育委員会へ、空知管内唯一の総合学科として定員維持を強く訴えてまいります。

高校存続は、まちの活力や地域活性化には不可欠であり、まちづくり全体に関わるものと認識しており、引続き市長部局と連携し、入学者数の獲得へ向け、様々な支援を行ってまいりたいと考えております。